

photopos 36

2017.1.29 ~ 2017.2.22

【神秘学ポエジー～風遊戯 第72集】

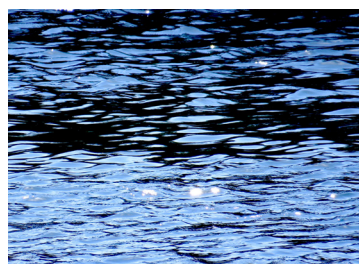
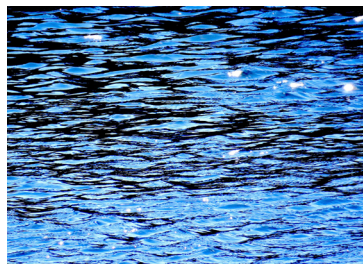
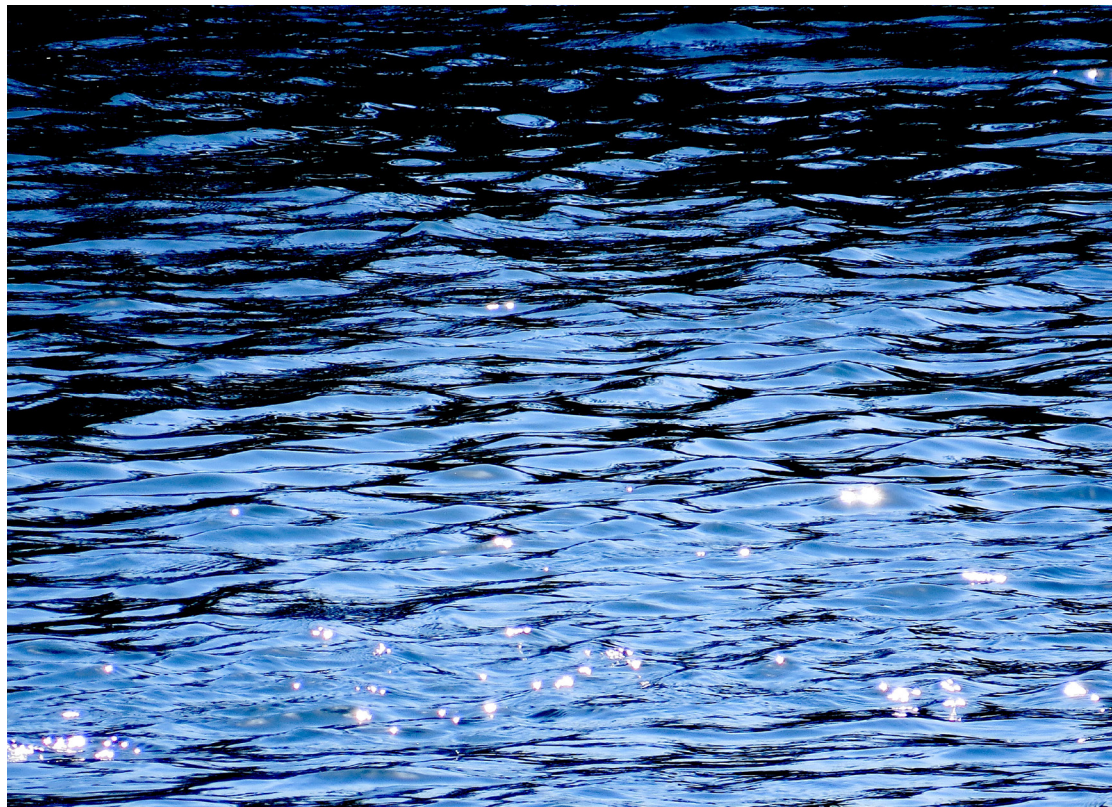
photo ヴァージョン

photopos876-900

神秘学遊戯団

photopos-876

2017.1.29



* 高知県南国市・物部川河口にて

夢の庭には
光の花が咲いている

眠れ
眠れよ
心をひらき

夢の庭の園丁は
光の花を育てている

眠れ
眠れよ
光のなかで

光の花の種は
夢見るあなたの心

眠れ
眠れよ
闇に負けずに

あなたの心が揺れるなら
光の花もゆれている

眠れ
眠れよ
光の子らよ

あなたの心が笑うなら
光の花も笑っている

眠れ
眠れよ
いまはまだ

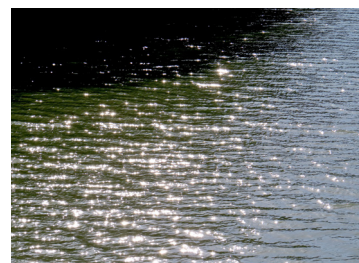
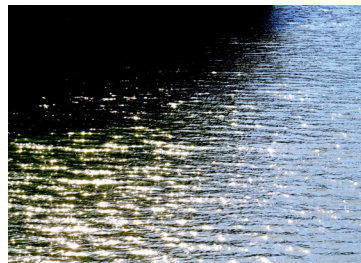
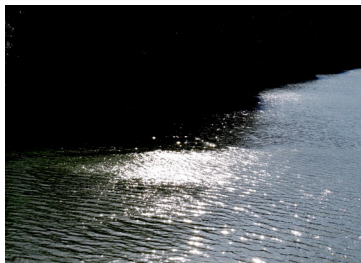
夢の庭には
光の花が咲いている

眠れ
眠れよ
安らかに

～「夢の庭の子守歌」より～

photopos-877

2017.1.30



*高知県香北町・物部川上流にて

眠れる者よ
そろそろだ

夢見る時は過ぎた
目覚めねばならぬ

時は近づいた
準備はできているか

忘却を生きてきた者よ
そろそろだ

記憶のヴェールは
やがて取れるだろう

鏡の奥に見える
己の姿に驚いてはならない

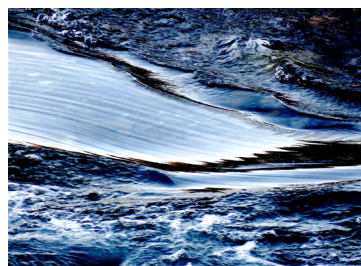
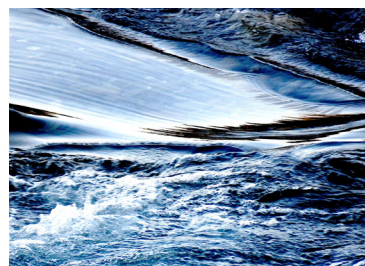
どんな姿をしていようが
それが今の己の姿なのだ

どんなに困難に思えたとしても
それを己の理想へと近づけねばならぬ

眠れる者よ
光の時はそろそろだ

photopos-878

2017.1.31



生まれ死に生まれ死に
眠り目覚め眠り目覚め

幾度も幾度も
繰り返し繰り返し
求め続けたとしても

それだけでは
みずからを超えることはできないだろう
教えられることではないからだ

学ぶためには
その彼方へと
みずからを超えてゆかねばならない

超えられないとき
時は
訪れるものに立ち塞がる壁のように
過去と未来を遮る川ともなるだろう

超えるとき
生と死の境は超えられ
時は
久遠の深みとともにあるだろう

*高知県南国市・物部川河口にて

photopos-879

2017.2.1



時間の

前と後ろのあいだにいと
つい足早になってしまうから

探しているけれど

なにを探しているかわからないものを
探すことにする

決められていないのに

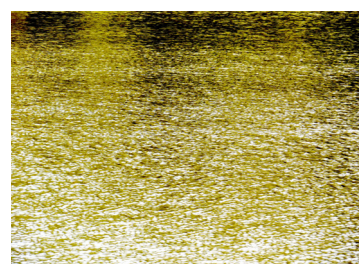
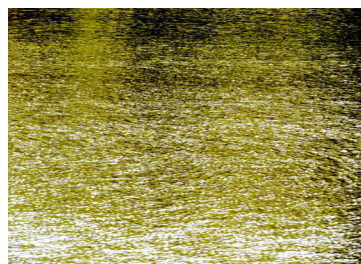
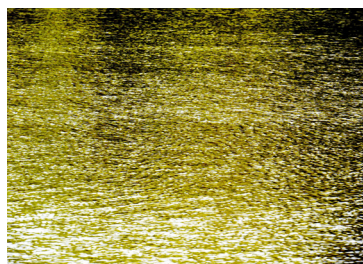
決めてしまっているものを
忘れたふりをして

心の知らない場所で

知らないものが呼んでいるが
その言葉は今は聞かないでおく

ゆっくりひとりで歩いていく

探しているもののことも
今は気にしないでおく



時間の

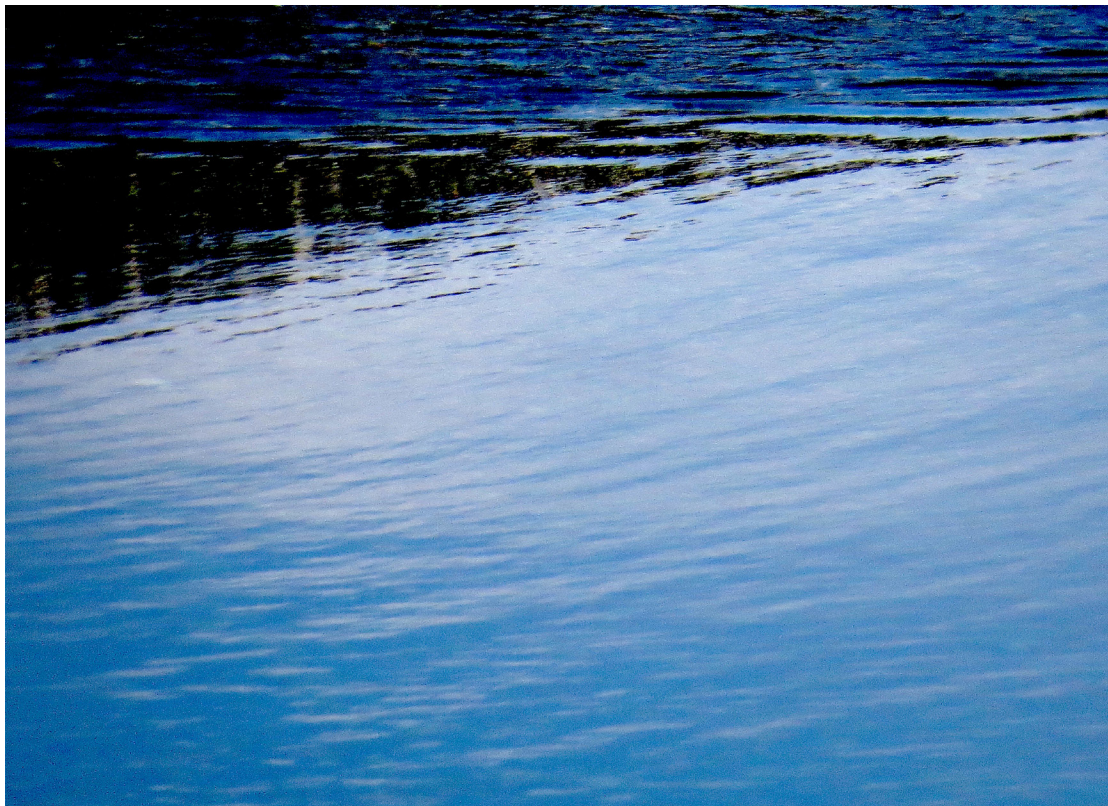
別の場所で

深呼吸しながら

* 高知県香北町・物部川上流にて

photopos-880

2017.2.2



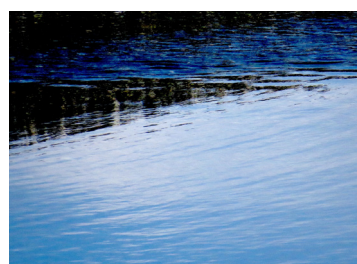
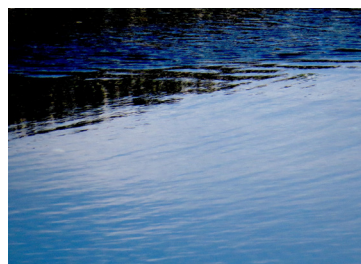
心の置き場が
見あたらず

わけもなく
戯けてみたり
わけもなく
黙ってみたり

心の色が
青のグラデーションで
天を映し
地に戸惑い
ゆれている

ゆれるならば
ゆれるままに
置き場なきときは
置き場なきままに

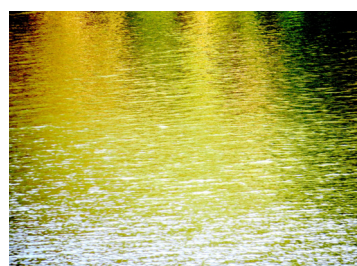
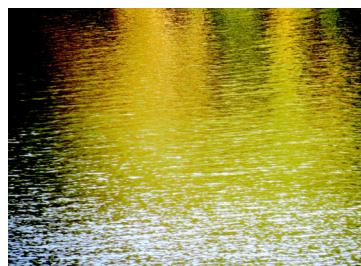
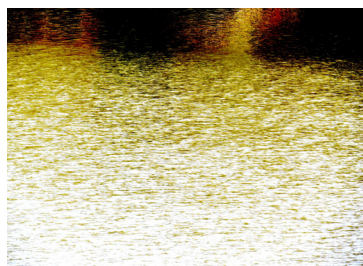
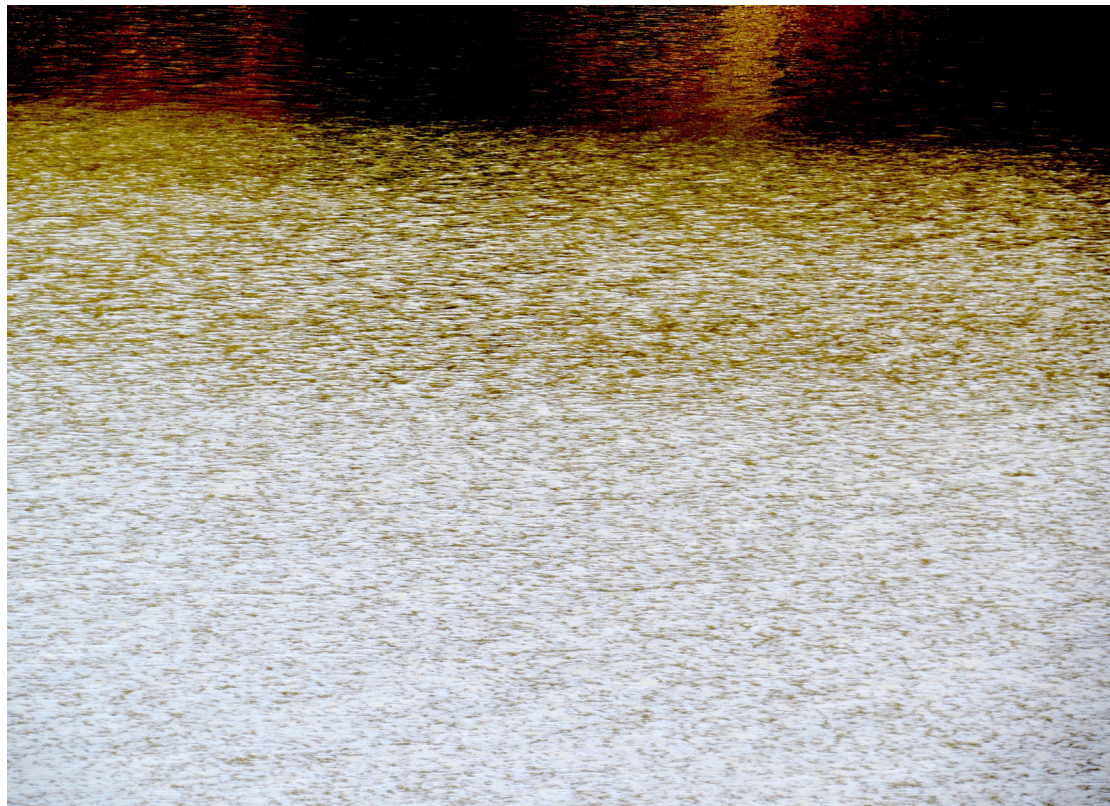
待つことだ
やがて
心ひらき
光放つまで



*高知県南国市・物部川河口にて

photopos-881

2017.2.3



* 高知県香北町・物部川上流にて

訪れは
目覚めのように

境域をよぎる
秘かな羽のように

姿なき姿として
静かに気配を顕す

ヴェールが剥がれるように
鏡の中から私が現れるように

それはすでに
そこにあったのだ!

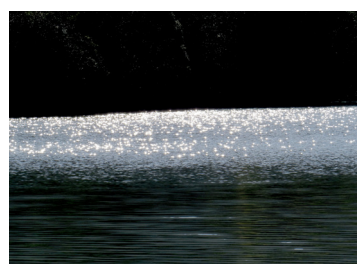
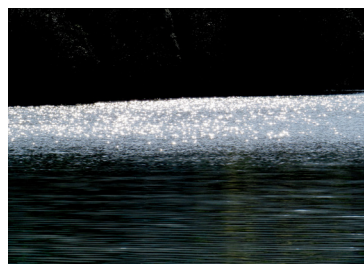
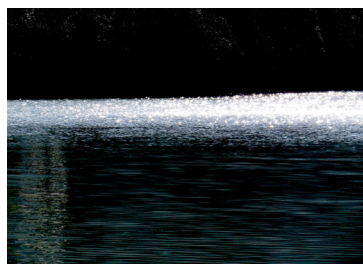
いつもともにあっただの!
離れたことなどなかった

その色が樹のなかにあったように
その音が弦のなかにあったように

目覚めは
不意に訪れる

photopos-882

2017.2.4



いにしえの光が
つかのま
忘れていた景色を
浮かびあがらせるとき

私のなかの
止まっていた時間が
流れはじめる

私はなにを
求めていたのだろう

手をのばしてものばしても
決してとどかないなにかを
私は求めていたのではなかったか

それはまるで
激しく激しく手をふりながら
別れを惜しむような
そんな求め方ではなかったか

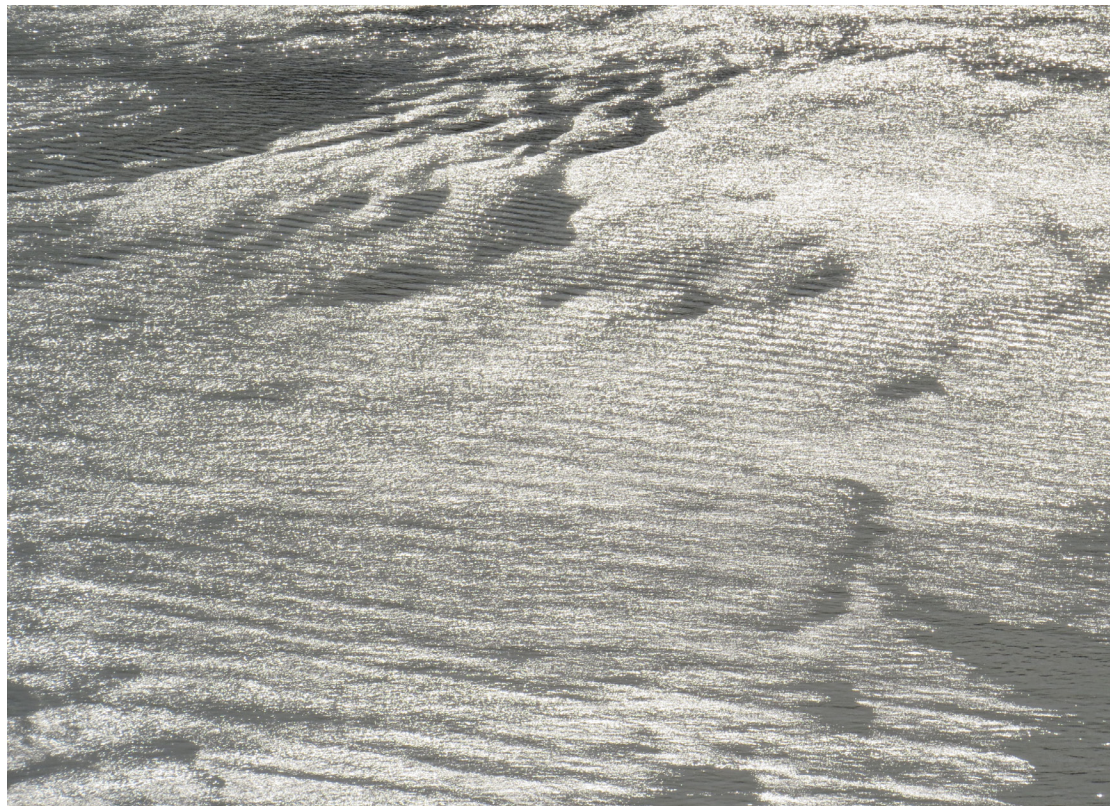
そうすることで
すべてを忘れ去ろうと
私はみずからの時間を
閉じてしまったのかもしれない

私はなにを
思い出そうとしているのか
いにしえの光の照らす
溶けはじめた時間のなかで

* 高知県香北町・物部川上流にて

photopos-883

2017.2.5



光がうつろうのか
私がつろうのか

水が流れるのか
私が流れるのか

鏡は照らしあい
私という現象を演じている

今がつろうのか
私がつろうのか

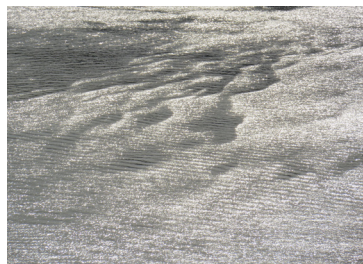
心という不可思議の生きものが
世界のなかで彷徨っている

世界のなかに生きて
世界を超えることはできるだろうか

世界を去るのではなく
世界から解放されてあることだ

色即是空
空即是色

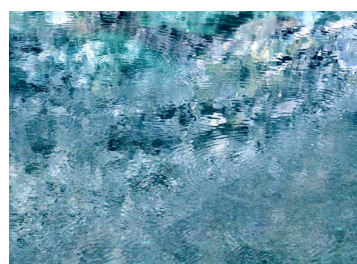
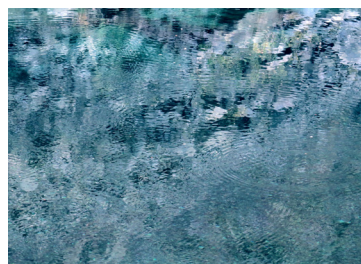
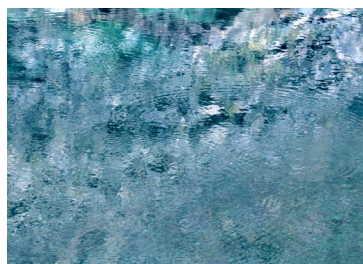
空と地のあいだを
私という現象が戯れている



*高知市五台山から土佐湾を臨む

photopos-884

2017.2.6



*高知県香北町・物部川上流にて

碧き鏡の
迷宮に彷徨い
夢を見る

沈黙の深き淵より
静かに生まれ出ようとする
言葉の種たち

母音たちは生まれ
水のように響きわたり
子音たちは生まれ
星のように踊り

魚となって泳ぎ
樹となって育ち
花となって光り
鳥となって飛翔し
地と水と風と火の
幾何学模様を創る

碧き鏡の迷宮のなか
私は言葉となって
私でない私と交響する！

photopos-885

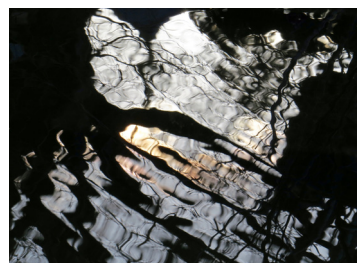
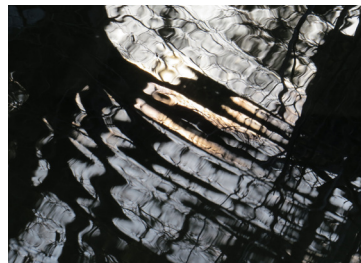
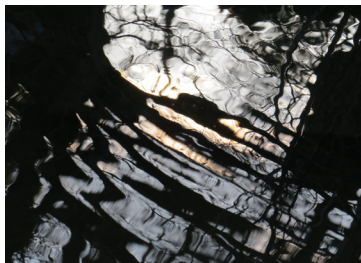
2017.2.7



夕暮れは
知らないわたしを連れてくる
鳥でも鳴けばなおのこと
異界の境も近くなる

夕暮れは
心の水をふるわせる
風でも吹けばなおのこと
記憶の闇もゆれまどう

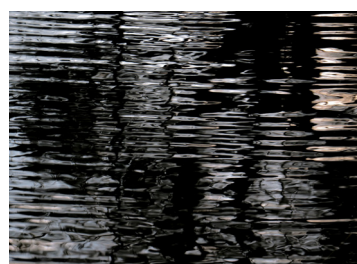
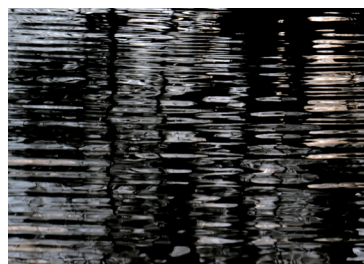
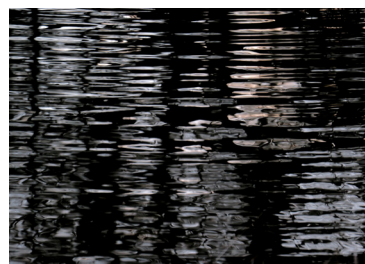
夕暮れが
ゆーらりゆらりと歌うとき
不思議の声もきこえます
忘れた人もよみがえり



*高知市・牧野植物園にて

photopos-886

2017.2.8



*高知市・牧野植物園にて

なにが見えるのか
見えないのか
わからなくなるとき
見ることを選ぶか
見ないことを選ぶか

見ることを選んだとき
現れてくるものと
見ないことを選んだとき
現れてくるものと

見るという不思議をまえに
わたしは見ることを
ぐるりと裏返してみることにする

じぶんがじぶんなのか
じぶんでないのか
わからなくなるとき
じぶんであることを選ぶか
じぶんでないことを選ぶか

じぶんであることを選んだとき
現れてくるものと
じぶんでないことを選んだとき
現れてくるものと

じぶんであるという不思議をまえに
わたしはじぶんであることを
ぐるりと裏返してみることにする

photopos-887

2017.2.9



光はどこへ
帰るのだろう

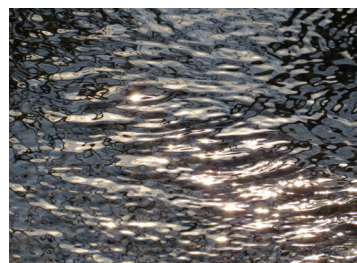
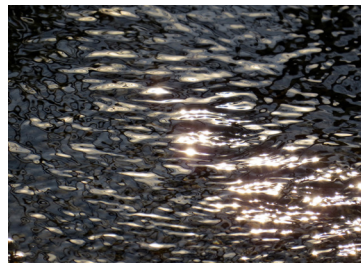
光は照らすけれど
光の姿は見えない

言葉はどこへ
帰るのだろう

言葉は声に文字になるけれど
言葉のほんとうの姿は見えない

私はどこへ
帰るのだろう

私の体は見えるけれど
私のほんとうの姿は見えない



*高知市・牧野植物園にて

photopos-888

2017.2.10



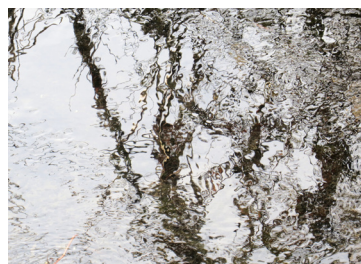
心の耳よ
歌う樹の声を聞け

天に風
吹き渡る風になれ

地に水
流れ踊る水になれ

人に光
輝き放つ光になれ

心の目よ
指の彼方の永遠を見よ



*高知県日高村・めだか池にて

photopos-889

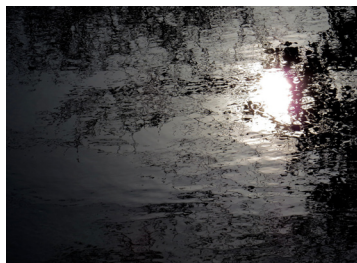
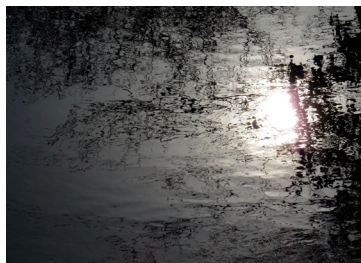
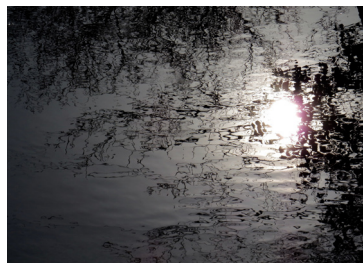
2017.2.11



闇に沈む花や鳥は
水鏡の裏へ去っていった
私もまた虚数となって
水鏡の裏へ行こうか

徒に浮かびくる
あすの夢や
きのうの夢のことなど
忘れてしまうために

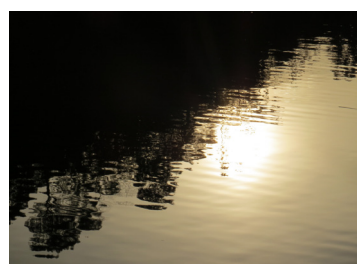
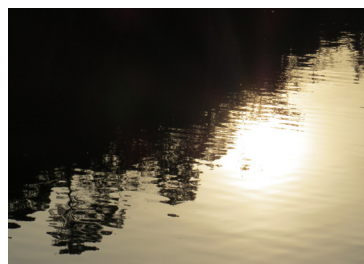
耳になるのだ
空と水のあいだで
光と樹のあいだで
秘かに交わされる
ことばをききとるために



* 高知県日高村・めだか池にて

photopos-890

2017.2.12



*高知県日高村・めだか池にて

何を求めているのか
それを探すための
旅なのかもしれない

問われないとき
求めているものは
たしかにそこにあるけれど
問われたとき
求めているものが何なのか
わからなくなるのだ
時を問われたときのように

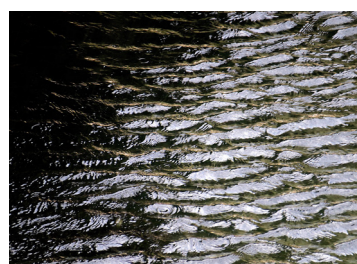
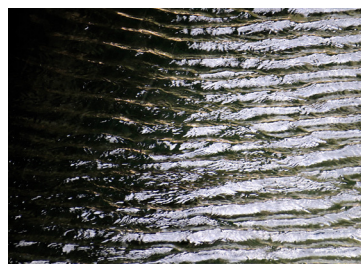
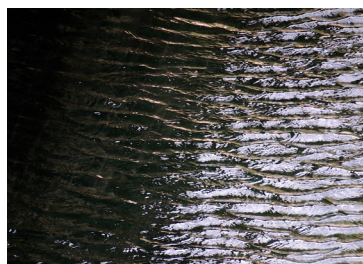
失われるものは
ほんとうは何もないのだ
いのちさえも
永遠のなかにあるのだから
それを忘れ去っているとしても

求めつづけていることを
人は軽く笑うこともあるけれど
その人もまた
求めつづけているのだ
その人のかたちで
それがどんなに悲しい形であっ
たとしても

歌声はひびくのだ
求めつづけているかぎり
わが歌声は高らかに
求めつづけているかぎり

photopos-891

2017.2.13



翼があれば
飛べるのかもしれない
そんなことばかり
考えていると
墮天使になってしまうぜ

道があれば
歩いてゆけるかもしれない
そんなことばかり
考えていると
ファンタジーエンをなくしてしまうぜ

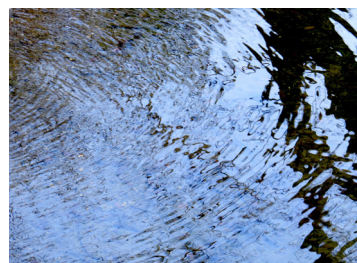
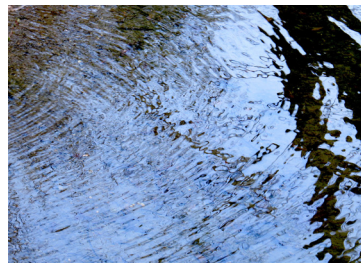
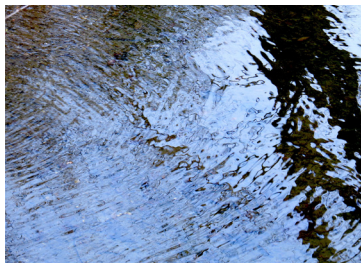
時があれば
考えられるかもしれない
そんなことばかり
考えていると
垂直な時が消えてしまうぜ

花があれば
愛せるかもしれない
そんなことばかり
考えていると
なま成りになってしまうぜ

* 高知県のいの町・仁淀川上流にて

photopos-892

2017.2.14



季節が変わるとき
人のなかの水は
にわかに蠢きはじめる

蠢きはじめた水は
もうとどめることはできない
うつされた樹も空も鳥も
水のなかで異界に変わってゆく

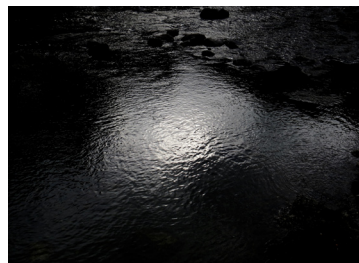
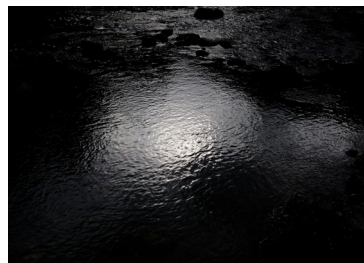
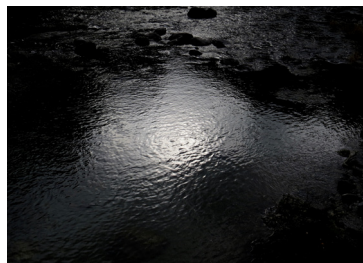
風が吹きすぎるとき
人のなかの言葉は
にわかに蠢きはじめる

蠢きはじめた言葉は
もうとどめることはできない
発された樹も空も鳥も
言葉のなかで秘密の姿を顕しはじめる

*高知市・牧野植物園にて

photopos-893

2017.2.15



黙示される秘密は
沈黙のなかでこそ
顕れ来るだろう

隠されていた
言葉とともに
忘れ去っていた
記憶とともに

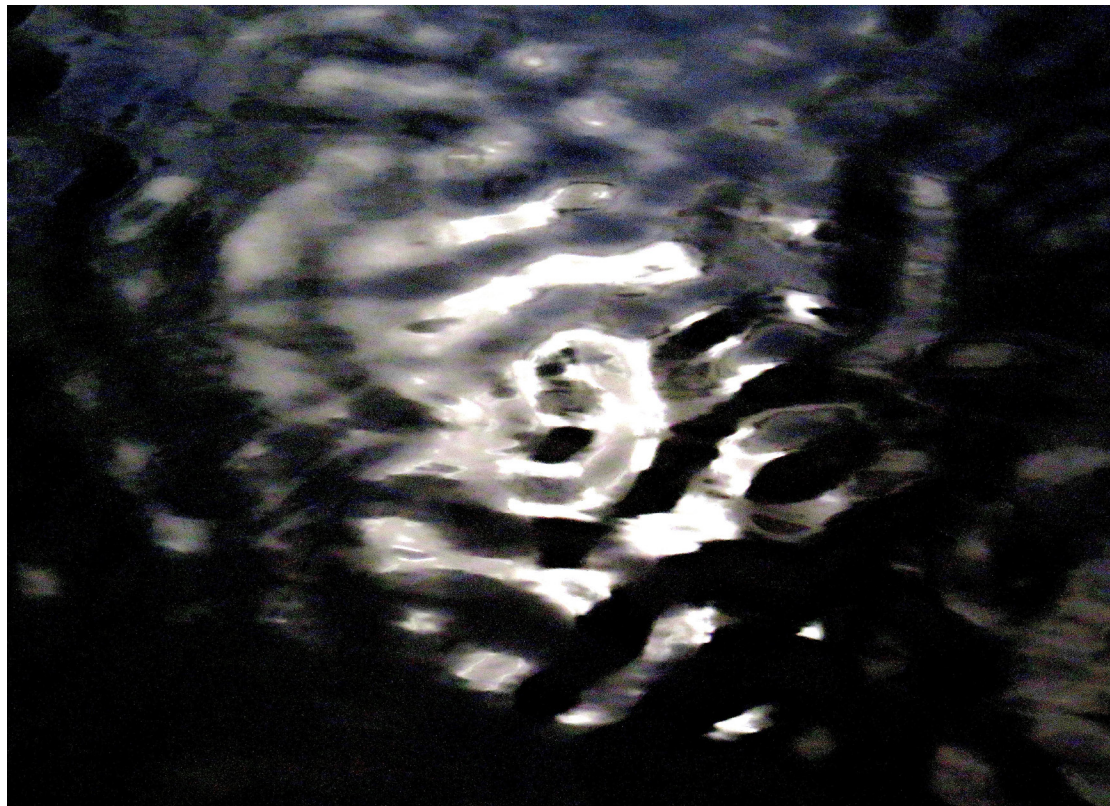
その鏡に映る姿には
過ちばかりが
映るかもしれない
錯誤ばかりが
踊るかもしれない

されど人よ
その姿を前に
己の理想をこそ
高く掲げるのだ
蘇りの秘儀のために
己のほんとうの名前とともに

* 高知市仁淀川町池川にて

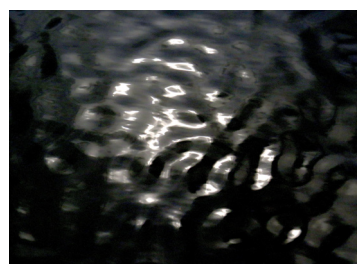
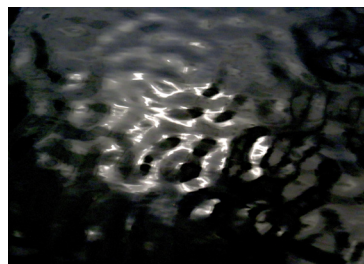
photopos-894

2017.2.16



生と死が
交差する境域で
響きあい結びあう
魂の錬金術
光と闇の
不可思議曼荼羅

我と汝が
交差する境域で
照らしあい結びあう
鏡の錬金術
虚と実の
不可思議幾何学



*高知県日高村・めたか池にて

photopos-895

2017.2.17

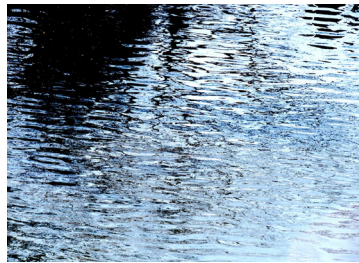


空の鏡に
亭々と
立ちあがる樹々

心の鳥は
その頂で
青い歌を奏でる

時の鏡に
ゆらゆらと
重なりゆく記憶

天使の指は
その合わせ鏡で
どこにもない場所の
だれでもない者を指さす



* 高知県南国市・物部川河口にて

photopos-896

2017.2.18



影を追い
影を負う
その哀しみから
逃れる術は
あるのだろうか

自由にあこがれ
自由に苦しむ
その繰り返しの中

時を追い
時を負う
その儚さから
逃れる術は
あるのだろうか

果てなきものならば
果てなきものの中
限りあるものならば
限りあるものの中

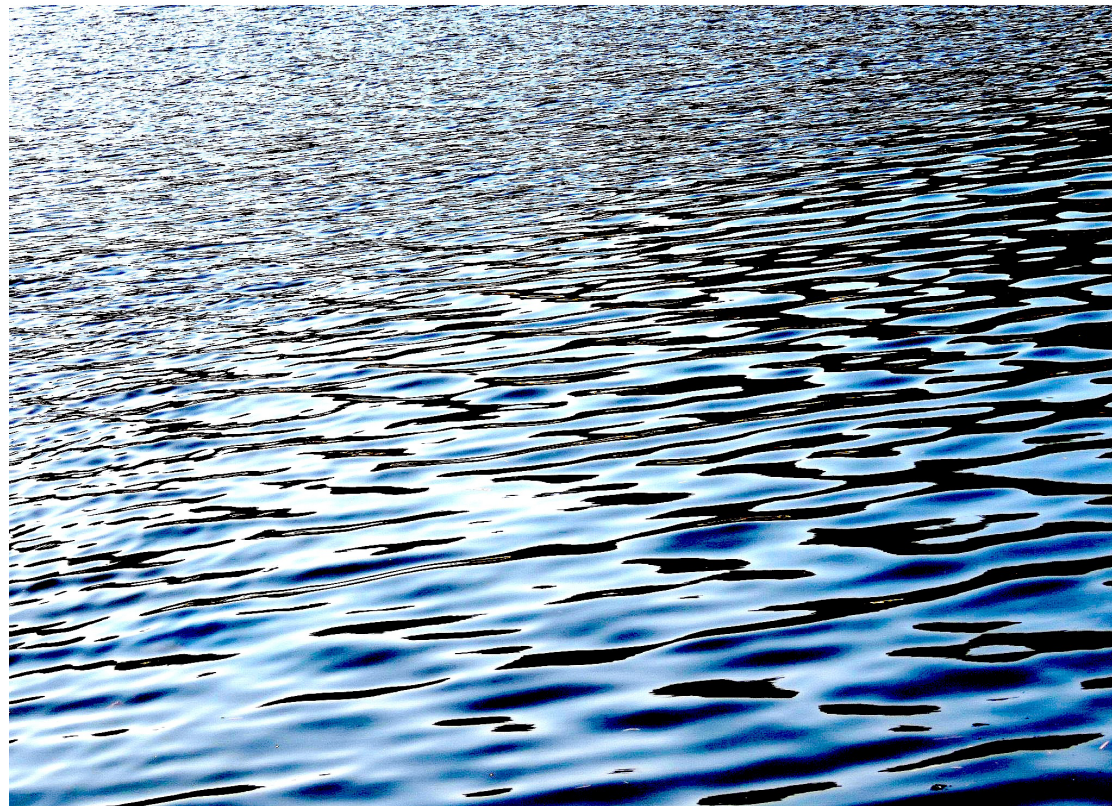
叡智を求め
叡智を負う
その断念の中
開かれる祈りは
あるのだろうか

秘密の彼方へ
境域の彼方へ
みずからの鏡を抱いて

*愛媛県久万高原町・雪の御三戸（みみど）にて

photopos-897

2017.2.19



だれかがぼくを
呼んだ気がして
ふり向くと
そこにはだれもいない

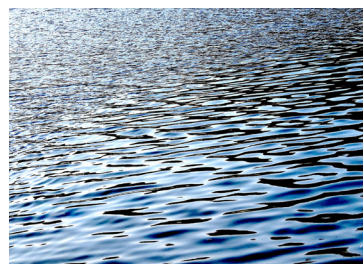
どこまでも
心象の水が
広がっているばかり

いつかのじぶんに
会いたいのかい
なくしたものを探してる
そんなじぶんに会いたいのかい

さよなら
きのうのじぶん
そしてあしたのじぶん

だれかがぼくを
呼んだ気がして
ふり向くと
そこにはぼくがいる

どこまでも
ぼくはぼくを見ている
どこかにいる
永遠のぼくを見ている



*高知県日高村・めだか池にて

photopos-898

2017.2.20



ロンロンと
水を渡る鈴の音
ユンユンと
風を遊ぶ鳥の影

奏でているのは
指の彼方の私
見ているのは
鏡のむこうの私

光は時を超えるだろうか
私は心を超えるだろうか

ロンロンと
時を渡る鈴の音
ユンユンと
心を遊ぶ鳥の影



*高知県日高村・めだか池にて

photopos-899

2017.2.21



風が水に話しかける
すると水は
とてもうれしくなってしまう
銀の鱗を燦めかせる
魚になってみたくなるんだ

きみがぼくに話しかける
するとぼくは
とてもうれしくなってしまう
銀の言葉を燦めかせる
詩人になってみたくなるんだ



*高知県日高村・めだか池にて

photopos-900

2017.2.22



甦れ
コトバよ

失われた声は
沈黙の裡より
響きはじめるだろう

顕れよ
光

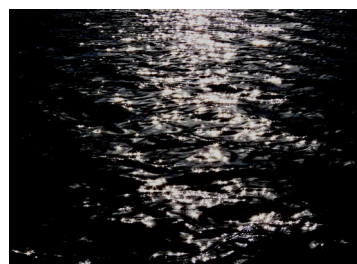
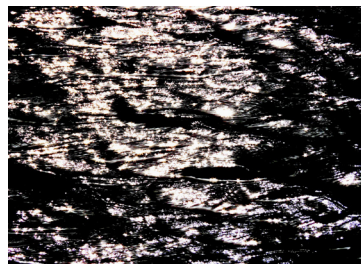
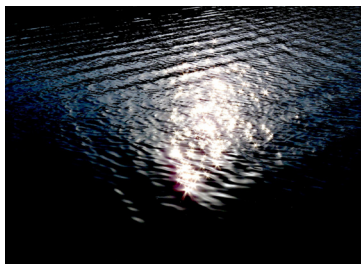
隠された記憶は
闇の深みより
輝きはじめるだろう

踊れ
カラダよ

失われた鼓動は
大地の底から
鳴りはじめるだろう

流れよ
魂の水

閉ざされた
生と死の境は
やがて開かれるだろう



*高知県日高村・めだか池にて